

環境影響評価集計表 環境影響に関する授業一覧

分類: (1) 自然環境、社会環境、文化環境、医学・保健環境等の理解促進に関わる授業

(集計対象: 平成25年度 調査実施年度: 平成26年度)

(2) 環境側面(環境に影響を与える要因)を個別具体的に対象とする授業

部局	No.	授業題目	分類	学年	開講学科・専攻	担当者	授業の概要
人文学部	1	フランス言語文化概論 I	(1)	全	人文学科	吉田 正明	中世から17世紀までのフランスの歴史・言語・文化・芸術を、文学史の流れに沿って概説する。
	2	フランスの文化 II	(1)	1	共通教育科目	吉田 正明	フランスの文化の諸相を、文学、音楽、芸術、言語、食文化等の具体例に即して概説する。
	3	ポジティブ心理学	(1)	全	共通教育	長谷川孝治	ポジティブ心理学の知見に基づき、自分や他者の行動を科学的にとらえ、自らの問題を考える上での理論的な枠組みを身につけることを目指す授業。
	4	社会心理学概論 I	(1)	全	人文学部人文学科	長谷川孝治・清水健司	社会心理学や臨床心理学の知見に基づき、自分や他者の行動を科学的にとらえ、自らの問題を考える上での理論的な枠組みを身につけることを目指す授業。
	5	英語史文献基幹講読Ⅲ			文化コミュニケーション学科	伊藤 盡	中世英語の文献を原語で講読し、中世の人々の倫理を学ぶ
	6	英語史文献基幹講読Ⅳ			文化コミュニケーション学科	伊藤 盡	中世英語の文献を原語で講読し、自然の中に生きる人間の自然観を学ぶ
	7	日本語教育学概論	(1)	全	人文学科	沖裕子	外国語としての日本語について講義し、人間にとって言語が社会文化環境そのものであることについて考えさせた。
	8	日本の方言	(1)	1	全学教育機構	沖裕子	日本の地域方言について講義し、日本の地域文化と言語との関わりについて考えさせた。
経済学部	1	経済発展論	(1)	2~4	経済学部	金早雪	自然環境の中で活動しながら、自然に対してローインパクトな関わり方を学習する。
	2	自然活動論ゼミ	(2)	全	全	古屋顯一	ゲーム理論における囚人のジレンマゲームを用いて、環境の過剰利用の問題を解説し、合わせて、効果的な政府の介入について検討した。

経済学部	3	自然と人間を考えるゼミ	(2)	全	全	古屋顯一	公共財・公共政策に関する、ミクロ経済学による解説・分析。この中の一説に環境を含む、公共財・外部性の課題に関するセクションがあり、排出権取引等の環境改善政策の吟味を行った。
	4	ミクロ経済学 I	(1)	2~4	経済学部	西村 直子	環境行政を含む行政の組織と活動についての法の概説であり、具体的な事例(裁判例)として、環境問題に関わるものを相当数扱った。
	5	公共経済学	(1)	2~4	経済学部	西村 直子	環境紛争を含む行政上の紛争解決についての法の概説であり、具体的な事例(裁判例)として、環境問題に関わるものを相当数扱った。
	6	会社法	法律環境	2~4	前期	長瀬	企業活動と環境について、企業のコンプライアンスの観点から法的課題を検討した。
	7	企業活動と法	法律環境	経営大学院	前々期	長瀬	環境問題の原因究明と解決策について、ミクロ経済学の基礎理論を応用した分析手法の習得
	8	国際政治		2~4	経済学部	美甘信吾	環境問題の原因究明と解決策について、ミクロ経済学の基礎理論を応用した分析手法の習得
	9	情報処理A	(1)	2~4	経済学科, システム法 学科	柳町晴美	環境問題の原因究明と解決策について、経済学的な思考・手法の学習、事例を基に思考・手法を応用実践する能力の養成
	10	情報処理B	(1)	2~4	経済学科, システム法 学科	柳町晴美	国際政治の授業の一部で、グローバル・イシューズとしての地球環境問題について解説。
	11	システム解析学 (自然地理)	(2)	2~4	理学部物質循環学科 人文学部	柳町晴美	情報環境に関する基礎的理解のために、情報を扱うスキルを養う。
	12	アウトドアの達人	(1)	全	全学対象	古屋顯一・古澤栄一	情報環境に関する基礎的理解のために、情報を扱うスキルを養う。
	13	スノー・スポーツ	(1)	全	全学対象	古澤栄一・杉本光公・古 屋顯一ら	自然環境に関わる基礎知識を習得し、地球環境に関して理解を深める。
	14	国際経済の現状と課題	(1)	2~4	経済学科	桃井 謙祐	①「不法行為の成否と過失の意味」に関する授業では、大阪アルカリ株式会社事件を取り上げ、②「無過失責任論の登場と無過失責任立法」の授業では、4大公害訴訟や大気汚染防止法・水質汚濁防止法などを取り上げながら公害の観点から環境問題を考えた。

法務書	1	環境と法	(1)	2・3	法曹法務研究科 法曹法務専攻	安藤絵美子	授業では環境法の体系と理論から入ることとし、次に環境政策や国際的取り組みの重要性を学び、その後主要な国内法の個別具体的な理解に至り、最終的には法曹として実践的な課題へ取り組むことができるよう授業を展開している。
理学部	1	環境問題のしくみ	(2)	1	全学部対象	戸田任重	様々な環境問題(地球温暖化、オゾン層破壊、酸性雨、富栄養化など)を取り上げ、その背景・要因・影響を解説した。
	2	環境基礎理論	(1)	2	物質循環学科	島野光司	地球環境の成り立ちなどについて講義。また、我々が直面する環境問題や、その解決方法などについて講義・議論を行う。
	3	大気環境学		2		鈴木啓助	大きなスケールから順に大気現象を詳述し、理解に必要な物理法則や化学反応について解説する。後半では、現実に直面している大気環境問題のいくつかについて説明する。
	4	堆積環境学	(1)	2・3	物質循環学科	村越	各堆積環境の成り立ちとそのプロセスを学ぶ
	5	生物地球化学	(1)	3	物質循環学科	國頭	地球規模での炭素循環や、酸性降水の生態系への影響などの環境問題についても扱っている。
	6	環境科学入門	(1)	1	全学科	朴 虎東	人間活動により排出される様々な環境汚染・有害物質の環境動態や人的影響の実態や対策に関する解説を行っている
	7	新入生ゼミナール	(2)	1	理学部・化学科	オムニバス	グリーンサイエンスの内容を担当し、化学物質による環境汚染を防止し、人体や生態系への影響を最小限に抑えることを目指した化学についての講義を行った。
	8	工業化学	(1)	3	理学部化学科	小田晃規	炭素エネルギー資源の供給ならびに利用状況について概説した。特に、有機工業化学の基幹物質の製造法と製品への変換について反応機構を中心に講義した。
	9	分析化学実験	(1)	2	化学科	巽広輔・金継業・樋上照男	実験で出る廃液の環境への影響について説明し、その適切な処理方法について指導した。
	10	分析化学演習Ⅱ	(1)	3	化学科	巽広輔	環境への負荷が高い化合物(6価クロム等)の分析法に関する論文を取り上げ、内容を解説した。
	11	物理化学Ⅱ	(1)	2	理学部化学科	飯山 拓	熱力学に関する基礎的講義の中で、温室効果ガスである二酸化炭素やメタンの性質について触れた。

理学部	12	物理化学Ⅲ	(1)	3	理学部化学科	飯山 拓	物理化学に関する基礎的講義の中で、フロンガスがなぜ利用されたか、オゾン層破壊など、どんな問題を生じたかについて触れた。
	13	物理化学実験	(1)	3	理学部化学科	飯山 拓、浜崎亜富、尾関寿美男	実験試薬、廃液の取り扱いについて学んだ。
	14	新入生ゼミ	(1)	1	化学科	オムニバス	放射性物質の除去方法や吸着剤の種類と性質について解説した。また、地球温暖化の現状と解釈、その要因について説明した。
全学教育機構	1	地球環境の歴史	(1)	1	全学教育機構	大塚 勉	地球環境の歴史と現在で人間が直面している環境問題
	2	自然災害と環境	(1)	1	全学教育機構	大塚・三宅康幸・村越直美	様々な自然災害がどのような地球環境の中で生じるのかを考える
	3	文系学生のための野外地質学ゼミ	(2)	1	全学教育機構	大塚 勉	信州の地質現象、博物館、女鳥羽川を訪ね、観察し、記録をとる。のちにレポートを作成する。現地での議論、発表を含む。
	4	環境～その人文・社会的アプローチ	(1)	1	全学教育機構	橋本 純一	環境を人文科学的視角から理解する
	5	環境～その人文・社会的アプローチ	(1)	1	全学教育機構	荒井 英治郎	環境認証制度と教育との関わりについて、グリーンキーを事例に取り上げながら、解説を行った。
	6	環境～その人文・社会的アプローチ	(1)	1	全学教育機構	庄司 和史	1/15担当。テーマ「ノーマライゼーションとバリアフリー」。人間の障害や共生社会の問題について環境という視点から考えた。
	7	環境～その人文・社会的アプローチ	(2)	1	全学教育機構	金沢謙太郎	食料調達の方法や居住地の移動などの生活戦略に関して、縄文人と東南アジアの先住民のそれを比較検討し、狩猟採集文化に対する理解を深めます。
	8	環境～その人文・社会的アプローチ	(1)	1	全学教育機構	分藤 大翼	「環境」について人文・社会的な様々な視点から、考察・検討・理解し、広い視野を持って環境問題を思考するための問題発見・問題解決の能力を養う。
	9	環境～その人文・社会的アプローチ	(1)	1	全学教育機構	田中 祥貴	我が国がかかえる環境問題について、人文科学および社会科学的視座から、問題の所在および解決に向けた方策を論じる教養科目

全学教育機構	10	環境～その人文・社会科学的アプローチ	(1)	1	全学教育機構	加藤 善子	同じ人たちが違う結果を生み出す:グループダイナミクスの視点から
	11	環境～その人文・社会科学的アプローチ	(1)	1	全学教育機構	佐々木 寛	人文・社会科学的な環境マインドを構築するにあたり、社会学、文化人類学、政治学、法学、文学、脳神経科学、教育学など、様々なパースペクティブから、環境を検討し理解する。
	12	環境～その人文・社会科学的アプローチ	(1)	1	全学教育機構	松岡 幸司	「環境」は、自然科学的な研究と理解に偏りがちであるが、人文・社会科学的な様々な視点から、考察・検討・理解する。それにより、広い視野を持って環境問題を思考するための問題発見・問題解決の能力を養い、併せて専門外の知識の獲得を目指す。
	13	環境～その人文・社会科学的アプローチ	(1)	1	全学教育機構	有路 憲一	障害者が抱える真の障害を、他者の無理解・無関心という“環境”の点から、具体的事例を交え解説した。
	14	環境～その人文・社会科学的アプローチ	(1)	1	全学教育機構	小山 茂喜	人文・社会科学的な環境マインドを構築するにあたり、環境教育の視点を江戸と現代を比較して論じた。
	15	環境～その人文・社会科学的アプローチ	(1)	1	全学教育機構	松岡 俊裕	中国現代環境映画たる『長江哀歌』を鑑賞させ、レポート提出を課した。
	16	スポーツ文化を考える	(1)	1	全学教育機構	橋本 純一	スポーツ文化、身体文化の諸側面に関して、文献講読、ビデオ鑑賞、討論《グループワーク》などを通じて、クリティカルな思考力、多元的な価値受容力などを養成する。
	17	自然環境と文化	(1)	1	全学教育機構	分藤 大翼	人類学的な観点から地球環境における人類の活動をとらえ、自然環境と密接に関わっている人々の生き方について学び、自然環境と文化の関わりの可能性と課題について考える。
	18	宇宙放射線と環境	(1)	1	全学教育機構	安江 新一	科学的な要素を取り入れながら現在のビッグバン宇宙論にせまる。物理的なものの見方、考え方に主眼をおいて、地球をとりまく宇宙環境、太陽活動が宇宙線を介して地球気候の長期変動に影響を与える仕組みについて取り上げる。
	19	環境マインドを現場で体験するゼミ	(2)	1	全学教育機構	大塚・金沢謙太郎・池田敏彦	野外でテーマを与えて能動的に行動することを通して、環境問題を考える。水生昆虫殻見た水質、ナノ水車発電、地下水利用について学ぶ。
	20	環境問題を化学者と考えるゼミ	(2)	1	全学教育機構	村上 好成	各種環境問題を教員より問題提起し、発表者を決定。毎回1～2名でレポートにまとめてレジュメを作り発表を行う。グループに分かれ、発表者の発表後皆で討論し、その結果をレポート用紙に簡単に文章にする。それらの結果を基に各グループが意見交換を行う。
21	生活の中の科学	(2)	1	全学教育機構	村上 好成	化学的事項を中心に毎回異なったテーマを探し、それを科学的に解説する。各自でさらに詳しく調べ、地球温暖化などの社会問題にも言及する。	

全学教育機構	22	環境社会学入門	(2)	1	全学教育機構	金沢謙太郎	本講では、環境社会学の理論的思考や実践的研究方法を学んだ上で、環境問題に対する自分なりの考察や批判ができることを目標とします。
	23	熱帯雨林と社会	(2)	1	全学教育機構	金沢謙太郎	熱帯産の食料や資源などを事例に、それらの大量移動に伴う影の問題や現地社会と私たちが抱える現代的課題について考えます。
	24	アジア環境白書ゼミ	(2)	1	全学教育機構	金沢謙太郎	アジアの各国や地域が直面している問題群を英語文献で学びます。問題の背景や構造を理解しながら、基本的な英語表現を身につけます。
	25	生態資源論ゼミ	(2)	1	全学教育機構	金沢謙太郎	生態資源とは、人とともに存在し生きてきた資源を指します。県内の生態資源を事例とし、それらの利用の歴史と現状、展望を探ります。
	26	社会学概論	(1)	2	人文学部	村山研一・辻竜平ほか(2回:金沢謙太郎)	環境社会学の概説とともに、社会運動の基本的な分析視角から国内外な環境運動の事例を検討します。
	27	信州の環境と社会	(1)	1	全学教育機構	吉田 利男	里山や奥山、さらに高山帯などで、ツキノワグマの餌を求めての行動と人々の生活との出会い、ニホンザルのえさを求めての行動と人々とのかかわりなど、さらに上高地でのイワナなどの放流事業と雑種化の問題など、人の野生動物へのかかわり方の問題などを、紹介する。
	28	環境文学のすすめ	(1)	全	全学, 高等教育コンソーシアム信州 遠隔配信	松岡 幸司	「環境文学」という文学ジャンルの視点、および作品を紹介し、そこに現れる自然・環境意識を「心でとらえる」学びを通して、「環境マインド」の育成を促進した。
	29	ドイツ環境ゼミ	(1)	1	全学部	松岡 幸司	「グローバルな視点で環境問題にアプローチできる姿勢と能力」を身につけるために、3週間のドイツ研修(語学研修+環境視察)を行い、その成果をレポートにまとめ、公開報告会にて発表する。
	30	ドイツ語圏の文化 I	(1)	1	全学教育機構	松岡 幸司	数回の授業で一つの大きなテーマを扱う。本講義は、教員からの情報提供の他にグループワークやプレゼンテーションなどが組み合わさって展開していきます。
	31	宇宙から原子への旅	(1)	1	全学教育機構	鈴木 治郎他	様々な自然現象を知り、自然観を豊かにすると同時に、科学の有用性を理解する。
	32	統計図解ゼミ	(1)	1	全学教育機構	鈴木 治郎	環境、教育、ジェンダーおよびスポーツに関係した資料を多く扱い、数値情報の現れている課題あるいは欠落している課題などを、コンピュータを活用してグラフなど図解して行く。
	33	電子出版の現代	(1)	1	全学教育機構	鈴木 治郎	環境、教育、ジェンダーの問題など電子出版にまつわる多くの話題を扱います。授業で提示した課題に関して各自が1週間ごとに調べてまとめた事柄をテストする目的で、毎回の課題提示が行なわれます

全学教育機構	34	数を読む技術	(1)	1	全学教育機構	鈴木 治郎	環境、教育、ジェンダーの問題など数値情報を扱う多くの話題を扱います。授業で提示した課題に関して各自が1週間ごとに調べてまとめた事例をテストする目的で、毎回の課題は提供してあります。
	35	検索の科学	(1)	1	全学教育機構	鈴木 治郎	環境、教育、ジェンダーの問題など、なるべくタイムリーな話題を扱いながら授業の展開がなされます。
	36	スポーツフィッシング	(1)	1	全学教育機構	杉本 光公他	信州の自然を生かした溪流つりを体験し、自然との関わりの中でどのように自己をコントロールするか学ぶとともに、信州の自然に接することによって環境に対する意識を高めることもあわせて目的とする。
	37	健康科学・理論と実践	(1)	1	全学教育機構	杉本 光公	この科目は心身の健康、キャンパスにおける安全、社会における望ましい人間関係、環境と健康、などについての知識と行動規範の修得を目標とする。
	38	健康科学・理論と実践	(1)	1	全学教育機構	廣野 準一	この科目は心身の健康、キャンパスにおける安全、社会における望ましい人間関係、環境と健康、などについての知識と行動規範の修得を目標とする。
	39	健康科学・理論と実践	(1)	1	全学教育機構	速水 達也	この科目は心身の健康、キャンパスにおける安全、社会における望ましい人間関係、環境と健康、などについての知識と行動規範の修得を目標とする。
	40	信州の強みを生きる	(1)	1	全学教育機構	加藤 鉦三	前半で、野辺山に生きる人たちの強さがどこから来るものであるのかを、事前講習、インタビュー、農作業体験、講義等を通して学ぶ。後半では、「食」をテーマに、高地での農業を学び、農作業と食事作りを体験する。
	41	ライフサイクルアセスメント入門	(1)	1	全学教育機構	小林 充	製品の資源消費量や環境への排出物量および環境影響の評価方法について講述し、演習を通じてその方法を修得する。
	42	環境と生活とのかかわり	(2)	1	全学教育機構	小林 充	生活に関わる製品・サービスの環境とのかかわりや環境ラベルについて講述する。
	43	健康科学・理論と実践(地球環境と健康)	(2)	1	全学教育機構	小林 充	地球温暖化やオゾン層破壊などによる人間への健康被害を定量的に評価する方法を修得する。
	44	トレッキング	(1)	1	全学教育機構	折口 築他	松本周辺のトレッキングを行い、幾つかのグループを編成し歩行のペース、休憩の取り方等について各グループで検討し実践するとともに、環境問題についても考える。
	45	日本社会と日本人	(1)	留学生	外国人留学生	村田 明	現代社会の特徴や社会問題をビデオ教材を通して見、毎回配布する資料を参考にして、ビデオ内容についての課題にこたえる。その課題への答えとしてのレポートを授業毎に提出する。

全学教育機構	46	生物科学Ⅱ	(1)	1	全学教育機構	今津 道夫	生物の多様性、進化と系統、生態と環境について、パワーポイントやプリントなどを用いて解説する。これらの基礎知識や概念を学び、生物と環境の関わりや地球環境問題についての理解を深める。
	47	生物と環境-生態学入門-	(2)	1	全学教育機構	今津 道夫	地球環境における生物の存在様式とその生態、生物群集での生物間のさまざまな相互関係、生態系の成り立ちやその仕組みについて、具体的な事例を取り上げて基礎的な事柄から講義を進める。
	48	化学実験ゼミ	(1)	1	全学部	勝木 明夫	勝木実験室, 化学実験室, 測定室において簡単な実験を行った。
	49	基礎科学実験	(1)	2	医学部医学科	村上 好成	種々の金属イオンの定性分析および定量分析を行った。
	50	化学実験	(1)	1	理学部	石川厚・大木寛・飯山拓・濱崎亜富・竹内あかり	種々の金属イオンの定性分析を行った。
	51	化学実験	(1)	1	理学部	巽広輔・樋上照男・小田晃規・金継業・太田哲・庄子卓	種々の金属イオンの定性分析を行った。
	52	生徒指導の理論と実践	(1)	2年～4年	人文・理・農・工・繊維	田村 徳至	児童生徒の学習効果を高めるために、学校内外の自然環境の整備は極めて重要であることを講義した。
	53	生活のなかの天文学	(1)	全	全	三澤 透	天文学を学際的に幅広く扱う講義。環境については、スペースデブリについてわずかに触れた程度。
医学部	1	健康科学・理論と実践		1	全学の1年生	塚原照臣	地球環境の変化(主に温暖化)と私たちの健康への影響について理解を深め、自らがどう対処していくかを習得することを目的に授業を行った。
	2	衛生学公衆衛生学演習・実習Ⅰ 環境医学概論		3	医学部医学科	野見山哲生	環境因子とヒトの健康について、ヒトに影響を与える外部環境について授業を行った。
	3	衛生学公衆衛生学演習・実習Ⅰ 環境医学の実践1,2		3	医学部医学科	塚原照臣	物理学的環境因子及び環境要因と健康影響、地球温暖化について授業を行った。
	4	衛生学公衆衛生学演習・実習Ⅰ 環境医学のトピック		3	医学部医学科	大前和幸	リスクアセスメント、リスクコミュニケーションのついて説明できる。

医学部	5	ユニット講義(臨床決断・社会医学)		6	医学部医学科	野見山哲生	健康と環境の関係について、説明することができる。
	6	社会・環境人間健康学概論		1	大学院修士課程	野見山哲生他	環境因子とヒトの健康について、ヒトに影響を与える外部環境について授業を行った。
部内局	1	健康科学・理論と実践	(1)	1	全員	川 茂幸 ほか	大学教育における基礎的な能力として、大学生活を健全に送り、かつ生涯にわたって健康を維持増進するための健康科学の知識と実践方法の習得を目的とする。